

令和6年度 利用学習事業実施報告



地底の森ミュージアム
仙台市縄文の森広場

目次

I 利用学習の基本的な考え方…………… 1

1 文化財普及と利用学習

2 学校教育における位置づけ

3 実施までの流れ

II 利用学習参加校及び体験内容一覧……………2

III 利用学習報告書(実績まとめ)…………… 4

I. 利用学習事業の基本的な考え方

(1)文化財普及活動と利用学習

仙台市ではこれまで文化財の保護・活用への理解と必要性について、市民の理解と認識を深めるために「文化財せんだい」等の各種広報誌の発行や埋蔵文化財の発掘調査時における遺跡見学会の実施など、数々の普及啓発活動を行ってきた。その成果もあり、一般に文化財に対する市民の関心は高く、また生涯学習への意欲も強い。

仙台市では平成4年に「仙台市旧石器の森・原始古代村構想」を策定した。昭和55年に保存が決定された縄文時代の遺跡である山田上ノ台遺跡と、旧石器時代の遺跡である富沢遺跡、多賀城以前の役所跡である郡山遺跡などを連携させながら、歴史教育の場としてそれぞれを整備していこうとする構想である。この構想を具現化する施設として、平成8年11月、遺跡の緊急保存を必要とした富沢遺跡に地底の森ミュージアムが開館した。以来、学校教育との連携を1つの大きな柱に掲げ、館の予算で送迎バスを借り上げ、見学や体験を中心とした学習活動を展開する利用学習事業を行ってきた。平成18年7月には分館として山田上ノ台遺跡に仙台市縄文の森広場が開館し、両施設を活用した利用学習事業が実施できることとなった。

また、平成14年度の仙台都市圏「どこでもパスポート」にはじまる県内各圏域でのジュニアパスポート等を利用した見学も活発である。平成18年度からは「どこでもパスポート」の提示により平日も無料で入館できるようになったことで、学校が終わってから来館する児童・生徒の姿も見られる。利用学習事業参加の児童・生徒が家族や友人とともに再来館することも多く、本事業は学校教育との連携を促進するだけでなく、文化財に親しみ、愛護する精神を育成するきっかけとしても効果的である。

(2)学校教育における位置づけ

学校教育の中での博物館利用については、令和2年度から全面実施された学習指導要領の中でその必要性が述べられている。小学校学習指導要領・社会科「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。」「博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。」と記載されている。

(3)実施までの流れ

事業の参加校は、前年度末に各学校宛に実施要項を送付して応募校を募り、新年度に決定している。参加決定後は、来館前に当日の活動内容や体験等について、利用館と事前に打ち合わせをして利用学習計画書を提出してもらい、実施後は、事後指導の機会を利用してまとめられた児童生徒の感想などを、利用学習報告書と一緒に提出(感想まとめ等は任意)してもらっている。実施開始時期は6月からである。これは、令和2年度からの学習指導要領の改訂により、小学校6学年の社会科の歴史学習が6月後半から始まることに合わせている。実際の活動については、令和2年度から4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、内容や収容人数の制限、手指消毒の徹底などをして実施していた。令和5年度からはそれらの制限をなくしたが、感染拡大がないように細心の注意を払ってこの事業を進めている。

Ⅱ. 利用学習事業 参加校及び体験内容一覧

令和6年度 利用学習事業 実績一覧（日程案順）															
No.	学校名	参加学年	参加人数		地底の森	体験活動								施設利用	
			児童	引率		縄文の森									
						勾玉	石	土	土	土	土	土	土		他
1	6月6日	9:00~14:30	連坊小路小	6	92	6	92		95						地底・縄文
2	6月12日	9:45~12:00	仙台白百合学園小	6	43	3	43		43						縄文
3	6月14日	9:00~11:30	岡田小	6	23	2	23	23							縄文
4	6月18日	9:00~14:30	愛子小	6	114	7	114	124							地底・縄文
5	6月21日	9:00~15:00	大和小	6	82	5	82		89						地底・縄文
6	6月28日	9:00~15:00	中田小	6	86	6	86	88							地底・縄文
7	7月2日	9:00~15:00	立町小	6	23	2	23		23						地底・縄文
8	7月2日	9:30~14:30	折立小	6	50	4	50	51							地底・縄文
9	7月3日	9:45~13:00	宮城県立聴覚支援学校	6	1	2	1		1						地底・縄文
10	7月4日	9:30~14:30	台原小	6	90	5	90			95					地底・縄文
11	7月5日	9:00~15:00	向山小	6	55	5	55		60						地底・縄文
12	7月11日	9:00~15:00	太白小	6	24	3	24			24					地底・縄文
13	7月12日	9:00~14:30	秋保小	6	2	1	2	2							地底・縄文
14	7月17日	9:30~14:30	川前小	6	71	4	71		71						地底・縄文
15	10月4日	9:20~15:00	茂庭台小	6	18	2	18							編19	地底・縄文
16	11月15日	9:00~15:00	長町南小	6	108	6	108	108						野114	縄文
小計					882	63	882	396	381	25	95	0	0	0	
※土ミニ=250g 土小=500g 編=編布 野=土器の野焼き															

Ⅲ 利用学習報告書(実績まとめ)

☛参加校(全16校：小学校15校・聴覚支援学校1校)

☛文章表記は、すべて原文のまま記載している。

1.『利用学習に参加して、施設を活用した学習活動が期待通りできましたか?』 回答16校

A:できた	B:できたが、期待通りではなかった	C:できなかった
16	0	0

☛参加校16校中16校が「できた」という評価だった。その理由についての記述は以下の通りである。

- 社会科の授業で、ちょうど歴史の学習に入ったところでした。歴史が好きな児童も多く、興味を持って意欲的に学習をすることができました。体験することや土器や住居跡など本物を見たり、触れたりすることによって更に興味関心を高め、子供たちの記憶に残る学習ができたと思います。ワークシートにも熱心に取り組んで、展示物もよく見ていました。
- 短い時間での見学、体験をお願いしていたが、その時間で子どもたちがそれぞれ課題解決して帰ってくることでできたため。
- 教科書や資料集で学んだものを実際に見学したことで、学びがより確かなものになった。約4000年前の遺跡から、当時の人々の生活の様子を想像し、より身近に考えることができた。勾玉づくりを通して、一つの道具を作るために多くの時間と労力がかかることを学び、当時の人々の生活の大変さを実感することができた。
- 子どもたちが今後の社会の授業や、地域の歴史に興味を持つ良いきっかけとなりました。
- 実際に展示施設を見ることで、教科書や資料集でイメージしていたものが具体化しながら確認することができた。竪穴住居に入り実際の広さや、涼しさ、暗さなどを体験することができた。また体験活動では、石器で紙を切ることで道具の使い道を想像することができた。様々な体験、見学活動を通して当時の生活を想像できる手立てとなった。
- 体験活動やワークブックを利用した活動が充実していて、児童が意欲的に学習に向かうことができたため。
- 見学・体験を通して、その時代の生活の様子等をしっかり学ぶことができた。また、事後学習で探検ノートなどを用いて振り返ることで、学習を深めることができた。
- 歴史学習の導入という状況での利用になったが、様々な体験ができたことで児童の意欲が高まった。早く歴史の学習をやりたいという声が多く聞かれた。
- 縄文時代について学習してから利用させていただいたため、今回の活動・見学を通して知識をより深めることができたから。教科書で見ていた縄文土器を実際に作る体験をすることができ、また、見学の際には詳しい説明を聞くことができ、児童にとって非常に充実した一日となったから。
- 学校での社会の授業では、短時間で浅くしか学ぶ機会のない旧石器時代や縄文時代について、興味を広げるような活動ができ、子供たちは生き生きと学習することができました。また、歴史を学ぶ意味について考えを深める、自分の生活との関連について意識する良い機会とすることができました。
- 見学や体験活動を含め、子どもたちが楽しみながら歴史について関心を深められたため。
- 地底の森ミュージアムでの展示物を間近で見学できたことや石器づくりの体験も全員ができたこと

で理解を深めることができたと思う。編布体験でボランティアの方に丁寧にサポートしていただき、とても貴重な経験をさせることができた。当時の布の貴重さも体感でき、理解を深める機会になった。コースターとして家庭で利用していると話題にもなっている。

- 児童が実際に体験することが多く、旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしについて理解を深めることができました。
- 実際に遺跡の見学や石器の体験活動を通して、当時の人々の生活に触れることで子供たちの理解が深まりました。また、施設見学後の子供たちの歴史学習に対する意欲が高まりました。
- 焼き上がった自分で作った縄文土器を嬉しそうに持って帰る子供たちが満足気でした。また、勾玉づくりも初めて体験する子供が多く、楽しそうに活動する様子が見られました。

2.『 担当として本事業に今後も参加したいと思われませんか? 』

回答16校

A:思う	B:わからない	C:思わない
15	1	0

☛参加校16校中15校が「思う」という評価だった。その理由についての記述は以下の通りである。

- 歴史の学習において、実際の遺跡を見たり、専門に携わっている方々のお話を聞いたりすることは、子供たちにとって大変有意義であると感じました。
- 児童が、体験学習をすることの楽しさを感じることができたため。
- 「縄文の森広場」を利用して見学したり体験したりことで、資料では分からない縄文時代の人々の生活の苦勞を感じ、現代の生活の豊かさに気付くことができる。
- 6年生の社会で歴史学習が始まる時期に合わせて、本物にふれることで効果的な学習が期待できることです。
- 専門的な知識のある職員の方々の説明と体験学習のおかげで、学校の授業だけの学習よりも興味や関心だけでなく、理解も深めることができるから。社会科の学習を進めていくうえで、児童にとって貴重な経験になると思います。
- 展示物などの資料が多く、教科書を利用しての学習だけでは分からない部分を補うことができたため。
- 見学・体験を行うことによって、児童が興味をもち、知識をより深めることができる。実際にたて穴住居や土器を見ることで、知識の定着につながると感じた。
- 他の施設と比べても体験活動が充実している。活動後、児童一人一人に制作した物が残るので、よい思い出になる。2つの施設を訪れることにより、教室の授業だけでは得られない学びが多くあると感じた。
- 歴史への興味関心を広げ、学習してきたことを深めることができるから。
- 専門的な視点からの講話と体験的な活動がとても効果的で、深い学びができる校外学習となりました。学校内では経験できない実体験ができたこと、本物に触れる機会となったことから、どの児童も集中して楽しく学ぶことができました。また、歴史を学ぶ入口の時点で両施設を同時に活用できること、さらに交通費に関する補助があることが、とてもありがたいです。
- 実際に自分の目で見て、体験する活動は何にも代えられないと思うため。子どもたちがとても充実した表情を見せていて、また参加させたいと思ったため。
- 身近に遺跡があることや当時の暮らしについて、実際に目で見て触れられるのは有意義だと思う。

授業での学習内容と必ずしも合致しているわけではない。

- 送迎バスがあり、大変助かりました。おかげで時間等も予定通りに活動することができました。ミュージアムや縄文の森広場の職員やボランティアの方々が、子供たちの学びに対してとても丁寧に対応してくださっていました。
- 実際に見学や体験をとおして、子供たちは遺物や道具を目で見たり、肌で触れたりしながら学んできたことができた。それにより、歴史学習への関心を高めた児童や我が国の歴史についての考えを深めた児童が多くいました。今後も、児童が興味関心を持って歴史学習に取り組む契機として、本事業を活用していきたいと考えます。
- 縄文土器を作ることを通して、社会科の歴史に興味を持つ児童が増えると思いました。

3.『館職員へのご要望やご意見、今後の利用学習事業に期待することがあればご記入ください。』回答12校

- 説明や子供たちの質問に対して、丁寧に対応してくださりありがとうございます。特に石器体験や石のアクセサリ作りでは、子供たちがよく話を聞き、集中して学習できました。みんなが楽しそうに学習し、終わった後の表情を見るととても満足そうでした。それぞれの施設の見学時間が短く、展示物を見ながらワークシートにも取り組みたいと思っている児童もおり、「もう少し見たい。」と子供たちは帰りに話していましたので、ご検討いただけたらありがたいです。
- 丁寧にご指導くださり、ありがとうございます。今後も、今回のような活動ができればと思っています。
- 勾玉作りでも施設見学でも、児童が取り組みやすい場の設定や、興味関心を深めるような声掛けがあり、児童が安心して学習に臨むことができた。
- 今回の利用学習では、午前午後の両館の活動で、内容は盛りだくさんでしたが、児童がじっくり展示を見学する時間が設定できませんでした。子供たちもワークシートがあるので調べて書き込みたい気持ちがあったようなので、次回は、展示見学の時間を計画に入れられればと思います。
- とても丁寧な対応をしていただき、ありがとうございます。職員の皆様のおかげで子どもたちは貴重な経験をすることができました。今後もこの事業が継続されることを願っております。
- 昼食時間が短かったため、もう少し時間を確保できるとよかったです。
- とても丁寧に対応していただき、ありがとうございます。
- 職員の方々の説明が大変丁寧で、子供たちの活動がスムーズに進められました。また、早めの到着や厳しい暑さに対しても、丁寧に対応していただき、ありがたく感じました。
- 地底の森ミュージアム見学の際、謎解きブックに書き込む時間がなかったので、説明の時間と自由見学時間（謎解きブックを使いながら各自の見学）があると良いなと思いました。また、石器体験の時間の中での体験時間がもっと長いと良いなと感じました。
- 歴史に触れることができる身近な施設として、小学6年生これからも、同様のプログラムで継続していただければと思っています。ワークシートの活用も効果的でした。
- 今後もこの事業を続けていただきたいです。
- 子供たちの興味を高めようという工夫が随所に見られ、楽しかったです。

4.『その他のご意見がございましたらご記入ください。』

回答10校

- 児童の興味を引くような解説をしてくださり、楽しみながら積極的に学習ができました。ありがとうございました。
- 丁寧に説明していただき、ありがとうございました。今回の利用学習を、今後の授業で生かしていきます。
- バスの手配など、交通面の補助があるのはとてもありがたいと感じた。来年度以降も継続していただけたらと思います。
- 子供たちのために様々な面での御配慮ありがとうございました。今後も積極的に施設を利用できたらと考えております。
- 石器に触れる体験や、「石のアクセサリ作り」の体験に集中して取り組む子供たちの姿に、学習の場として大変有効であると感じました。ぜひ、来年度も同様のプログラムで実施したいと思います。
- とても充実した見学内容でした。また体験活動も児童の興味関心があるものでとても良かったと思います。ありがとうございました。
- 今回の校外学習は、社会科と総合的な学習の時間の両方の目標を持たせて行いました。社会科の歴史学習の導入にあたり、直接体験の場を確保でき、大変有意義でした。総合的な学習の時間としては、自分づくり教育の一環として「様々な職業に触れる」ことに加え、中学生の職場体験の場にもかかわることができ、自分たちの学習を支えてくれる大人の動きや仕事について考えるという目標を達成することができました。大変お世話になりました。
- 今回の利用学習で、ご尽力頂き心から感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。バス代が少額で済んだので保護者負担を考えると、とてもありがたかったです。また金額については、事前にお聞きしていた金額と変更があったため、集金の関係上、変更のないようお願いできればと思います。
- この度は、児童への指導など様々な場面で御配慮をいただきました。また、アレルギーの児童に対しても御配慮いただき、ありがとうございました。
- 貴重な経験をさせていただきありがとうございました。また、利用する際には宜しく願いいたします。

5.まとめ

令和6年度の利用学習事業参加申込は、市内小中学校16校で、すべての学校が予定通りの施設見学学習と体験学習を終えることができた。

<利用学習事業利用校数・参加児童数の推移>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用校数(校)	28	28	13	19	21	18	16
参加児童数(人)	1,844	1,869	1,014	1,220	1,380	1,103	883

<利用学習事業利用16校の市内区ごとの所在地>

青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区
5	1	2	7	1

利用学校の所在地は太白区と青葉区が多かった。交通費の補助は、保護者の経費負担軽減に大いに役立ち、

魅力ではある。しかし、遠隔地になればなるほど時間の制約が掛かってしまうことが、太白区青葉区以外の利用校が少ない理由と考えられる。

この事業は、両館を積極的に利用することによって教育効果をさらに高めることを目的としている。そのために、各学校から両館への往復の交通費を補助しているが、事業予算が収まらなければ、不足分を保護者等に負担していただいている。また今年度も、バス移動時の安全を確保するために、補助席を使わないこととした。補助席以外の座席数から配車バスの大きさと台数を算出し、複数の業者からの見積もりから選定している。

<地底の森ミュージアムでの活動対応表>

会場	展示室(地下・1階)	研修室
内容	・遺跡の展示解説 ・ワークシートを用いた自由見学	・石器使用体験 ・年表を用いた説明

<縄文の森広場での活動対応表>

会場	体験活動室	展示施設
内容	・施設の紹介、縄文時代の説明 ・主に「土製品づくり」「勾玉・石のアクセサリーづくり」体験	・屋内外展示資料解説見学

今年度は感染症対策の心配も軽減されたため、従来の体験活動に近い形で活動することができた。参加校からの事後報告書では「施設を利用した学習活動が期待通りにできた」「本事業に今後も参加したい」「この事業を継続してほしい」と評価をいただいた。その主な理由としては、展示された実物資料を見たり、触れたり、説明を聞いたりすることで、旧石器時代や縄文時代の人々の生活や思いを楽しく想像できたこと。また、体験活動を通して、歴史学習に興味・関心を高め、理解を深めることができたこと等が挙げられている。五感を通して学ぶことができる両施設の持つ特長を生かしながら、学校と連携することで、教育効果がさらに高まることを示す内容であった。職員の対応等についても親切で行き届いた配慮が見られた等の肯定的な回答が多かった。

一方、昨年度に引き続き参加校が固定化している傾向が若干みられる。「指導時数に余裕がない」「学校と両館が物理的に離れている」「事業そのものの存在を知らない」などの理由が考えられる。今後、次年度の事業広報活動の時期を検討したうえで、事業説明をする機会を数多く設定する。そして 2 館での学習の成果を強調し、より多くの児童生徒が有意義な学習に結びつくようにしたい。

